

1 キリスト教神学
第7章 ポストモダンと神学
一宮基督教研究所
安黒務

2 「キリスト教神学」
概略

- ①
1. 神を研究すること
 2. 神を知ること
 3. 神はどのような方か
 4. 神は何をなされるか
 5. 人間
 6. 罪

- ②
7. キリストの人格
 8. キリストのみわざ
 9. 聖霊
 10. 救い
 11. 教会
 12. 終末

3 第1部 神を研究すること
概略

1. 神学とは何か
2. 神学と哲学
3. 神学の方法
4. 神学と聖書の批評的研究
5. キリスト教のメッセージの今日化
6. 神学とその言語
7. ポストモダンと神学

4 第7章 ポストモダンと神学
概略

1. ポストモダニズムを定義する
 1. プレモダニズム
 2. モダニズム
 3. モダニズムに対する不満
 4. 急進的ポストモダニズム
2. ポストモダン神学の諸類型
3. ポストモダン時代に神学すること
 1. 急進的ポストモダニズムに対する批判
 2. 建設的なポストモダン神学の諸原理

5 序

1. 本章の目的
2. 本章の概要
3. 研究課題

6 第1節 ポストモダニズムを定義する

プレモダニズム

1. 宇宙は合理的なものである
2. 目的論的
3. 歴史も秩序立ったパターンに
4. 形而上学的概念・認識的概念が関係していた

7 第1節 ポストモダニズムを定義する

モダニズム

1. アプローチの一致点と相違点
2. 近代思想 - 合理性・確実性の強調
3. インマヌエル・カント
4. ベーコンの思想・ニュートンの思想
5. ランドル『近代知性の形成過程』
 1. 本質的にヒューマニズム
 2. 自然主義
 3. 科学的手法
 4. 生物学的進化論
 5. 決定論
 6. 還元主義の傾向
 7. 基礎づけ主義
 8. 形而上学的実在論
 9. 言語の表象的見方
 10. 真理における対応説
6. あらゆる事柄を覆い尽くす説明を探求

8 第1節 ポストモダニズムを定義する

モダニズムに対する不満

1. アレン: モダン全体の崩壊の四領域
 1. 「自己充足的な宇宙」の問題
 - ・ 合意事項に重大な疑い
 2. 道徳と社会の基盤を見出すことに失敗
 3. 進歩への楽観主義の喪失
 4. 知識は中立的なもの
2. オーデン: モダニティの四つのモチーフ
 1. 自立的個人主義
 2. 自己陶酔的快樂主義
 3. 自然主義的還元主義
 4. 絶対的ドグマティズム

9 第1節 ポストモダニズムを定義する

急進的ポストモダニズム

- 合理性の基本事項のいくつかを拒否しつつ、さらに急進的に
1. 「脱構築」
 2. ネオ・プラグマティズム
 3. 新しい歴史主義
 4. モダニティの極端な拡張

10 第2節 ポストモダンの諸類型

- グリフィン: 便宜的なカテゴリー
 1. 「脱構築あるいは排除的ポストモダン神学」
 2. 「建設的あるいは改訂的ポストモダン神学」
 3. 「解放論的ポストモダン神学」
 4. 「保守的あるいは再構成的ポストモダン神学」
- 相違点 - 翻訳者と改変者の間の相違に対応

11 第3節 ポストモダン時代に神学すること

序

1. ポストモダン時代への移行の事実
2. 真剣にポストモダンの見方に備える
3. ポストモダンの精神構造

12 第3節 ポストモダン時代に神学すること

急進的ポストモダニズムに対する批判

1. 極端なポストモダニズムの信念には抵抗
2. 中心的問題のひとつ - 一貫性をもって主張を維持することの難しさ
3. 脱構築を唱導しつつ、脱構築主義者であることは難しい
4. デリダのサールへのレスポンス
5. 脱構築が採用しない論理を前提に
6. 合理主義が制限したので、ポストモダンは合理主義を拒否

13 第3節 ポストモダン時代に神学すること

建設的なポストモダン神学の諸原理

1. 五人の目の見えない人たちと象
2. 相対主義、多元主義、主観主義
3. 外見上の主観性を扱う一つの試み
4. ある程度の謙遜が神学を保持する
5. 福音の文化脈化にかかわる
6. 共同体の訴え - 客観性を保証しない
7. 神学が未信者に提示される
8. 啓示の様式 - 聴衆が知覚できる特徴を考える